



(シンポジウム風景)

第20回 日韓シンポジウムに参加して

一般社団法人 北海道地域農研農業研究所 専任研究員 正木 卓

二〇一三年八月八日〜九日の二日間にわたり、韓国春川市・江原大学において第二〇回日韓シンポジウムが開催されました。

そちらをお読みいただき、ここでは簡単に触れておきたいと思います。

当研究所からは、前理事長であり現在、研究所顧問の藤田久雄氏と私が参加いたしました。韓国春川市といえば、日本において韓国ドラマの火付け役ともなった「冬のソナタ」のロケ地であり、一時期、日本人観光客が殺到した地であります。

日韓シンポジウムは、北海道農業研究会が一九九三年に行った韓国江原道での農村調査を契機とし、北海道と韓国江原道の農業経済研究者によって両地域間を隔年ごとに訪問して、相互に農村現場での調査と学術交流を重ねて、シンポジウムを開催してきましたものであります。第一回シンポジウムは一九九四年に開催され、今年度（二〇一三年）の開催で二〇回目の節目を迎えています。当研究所は、藤田顧問の挨拶にもありましたが、シンポジウム開始当初より様々な面で支援を行ってきました。今回のシンポジウムでも後援団体となっております。

読者の方々は「日韓シンポジウム」と聞いても、どのようなものか皆目検討が付かないところと思いますが、これまでの活動のあゆみについては長年事務局を担当され中心的な役割を果たされてきた北海道武蔵女子短期大学松木准教授が「日韓地域農業論への接近」に詳しく整理されており、

す。



(挨拶をする藤田顧問)

見つめ直し、情勢に屈することなく挑戦していかざるを得ない時期にきているからであります。

まさに、そういう時期だからこそ、これまで続けてきた「日韓シンポジウム」の成果として得られた多くの知見が発揮されるものと考えています。両国間相互に真に農業の発展をみすえた他に類をみない研究成果はかけがえのないものといえます。

地図をみると、国ごとに線が引かれ国境を見ることができませんが、現実問題の波及は線引きすることはできません。韓国、日本として区別する必要は何もないのです。農業問題しかり、研究しかりです。したがってお互いの国を理解、尊重し、深く交流することが大事なことです。

シンポジウムでは年度ごとに、その時々国際的な関心、あるいは両国が内包している地域農業の課題を踏まえてテーマを設定し、議論してきました。二〇周年の記念すべき年にあたる、今年度のテーマは「地域農業への挑戦と課題」であります。このテーマは、両国とも厳しい農業情勢下にあることを踏まえるものであり、韓国はアメリカと「韓米FTA」を締結したこと、日本では「TPPに交渉参加表明」したことにより、地域農業への抑圧が今後ますますきびしくなることが予想され、地域農業を

日韓シンポジウムは、研究者の報告の相互理解はもちろんのことですが、研究者間の言葉や国情などを超えたヒューマニティそのものの交換の場でもあると思っています。人間にとって、農は〈命のかて〉であり、食糧の安定供給はもちろん、より安全なものを生み出そうとするアプローチは永



(総合討論)

遠の共通したテーマでもありと考えるから
です。

さて、韓国ドラマの「冬のソナタ」は、
第一話「出会い」〜第二〇話「冬の終わ
り」の二〇話で終了してはいますが、この日
韓シンポジウムによる相互交流は、二〇年
の長きに亘るシンポジウムを場とした交流
をこのままで終了することなく、さらにさ
らに前進させる必要があると、シンポジウ
ムに参加してますます強く感じたところで
す。

それは、韓国においては米国とのFTA
問題、日本においてTPP問題と、これま
で経験したことのない厳しい農業情勢が待
ち構えているという両国間の共通した課題
があるなかで、その問題意識を共有し地域
農業振興を議論し課題解決の方向を探る場
がこれからもますます必要であるからであ
ります。

この二〇年間、シンポジウムを通じて、
両国の研究者はその研究成果を共有してき
ました。今、直面するFTAやTPP問題

を超えて、今後の方向性や課題を克服して
いくためにも、これまで以上の議論や研究
成果の内外への発信が求められていると考
えています。そのためにも、私たち若手研
究者（大学院生・留学生などを含めて）の
交流もより強固にしていかなければならな
いと、二〇年という長い歴史をもつシンポ
ジウムに参加し強く感じたところでありま
す。



(農家視察)

※日韓シンポジウムの二〇年間の記録とも
いえる書が、「日韓地域農業論への接近」
として出版されている。

これまでのシンポジウムの成果を踏まえ
て四部構成から分担執筆されている。是非、
一読をお勧めする。

〈坂下明彦・李炳旻編著

『日韓地域農業論への接近』

筑波書房、二〇一三年〉



(トマト 選果場視察)